

科目名	音楽Ⅰ		履修学年	第1学年	
			履修形態	必修	
			履修単位	2単位	
使用教科書 (出版社)	高校音楽Ⅰ 改訂版「Music View」 (教育出版)				
使用教材 (出版社)	なし				
学習の目標					
中学校の「音楽」で学習した内容・経験を基礎とし、音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深めることを目標として授業が展開される。主な学習内容は（１）歌唱・器楽・創作などの表現力の伸長に関わるもの、（２）日本の伝統音楽や世界の諸民族の音楽、また、音楽史や基礎的な音楽理論にも触れ、音楽の喜びを味わう。					
教科担当者から					
得意、不得意が分かれる教科です。たとえ実技（リコーダーや歌唱等）が苦手でも、テストだけではなく、それまでの過程（一生懸命取り組んでいるか、発言しているかなど）や、提出物などでも評価します。また、テストは実技だけではなく筆記も実施するので、挽回は可能です。諦めず一緒に頑張りましょう。					
評価の観点・方法・割合					
観点	関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力	
規準	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感じながら、音楽表現を工夫し、表現意図を持っている。	創意工夫を生かした音楽表現を身につけ、創造的に表している。	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感じながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。	
方法	※ ◎は観点の中でより重視するところです。				
学習の行動 観察	◎	○	○	○	
活動の成果	○	◎	○		
提出物	○	○	○	◎	
実技テスト		○	◎		
割合	20%	25%	35%	20%	
評価の基準 ※ 満点を100点としたとき					
5	4	3	2	1	
85点程度以上	68～84点程度	48～67点程度	30～47点程度	30点程度未満	

学習内容									
学期	月	単元名／学習内容	学習のねらい	評価の観点					時間
				関	創	技	鑑		
前期	4	歌唱Ⅰ ○校歌 ○少年時代 ○世界に一つだけの花	・本校生徒であることの自覚と誇りを持ち愛着を深める。 ・仲間と共に歌う楽しみを味わい、歌詞の内容から曲想をイメージし表現する。	○		○			6
	5, 6	器楽Ⅰ（リコーダー独奏）	・リコーダーの歴史に触れ、各種リコーダーの運指と奏法を確認しながら、音の響きの美しさを感じる。	○	○	○			10
	6, 7	楽典Ⅰ （譜表、音符、休符、リズム、拍子）	・音符・休符の構造を知り、組み合わせによるリズムを理解し、楽曲上で応用する。 ・拍に乗ることにより最小限の秩序を知り、整然または変化に富んだリズムを体験する。			○	○		3
		歌唱Ⅱ（合唱） ○COSMOS	・呼吸法、発声法、発語法を学びながら、混声合唱の楽しさを体感し、歌う喜びを味わう。	○	○	○			7
	8	鑑賞Ⅰ（様々なジャンルの歌唱）	・普段耳にする音楽から、オペラ、伝統音楽など、様々なジャンルの歌唱方法について感じ取り、発表し合う。	○	○	○	○		4
	9 ～ 10	器楽Ⅱ リコーダー四重奏	・自分の役割を理解し、他者と一緒に作品を作ることによって、協調性やコミュニケーション能力を向上させる。 ・器楽Ⅰでの学習や各種リコーダーの運指と奏法を確認しながらSp. Al. Ten. Bsの音の響きと和音の美しさを感じる。 ・互いの発表を聞き合い、感じたことを批評し合う。	○	○	○			12
後期	10 ～ 12	歌唱Ⅲ ○Caro mio ben ○'O sole mio	・声域の拡大やバリエーション唱法及び発声を学び、歌詞や曲想について話し合いながら、各自の声質や個性を活かした表現を目指す。 ・互いの発表を聞き合い、感じたことを批評し合う。	○	○	○			10
	12	鑑賞Ⅱ（ミュージカル映画）	・作者達の人物像や創作の背景を知り、作品に込められたメッセージを理解する。	○	○		○		6
	1 ～ 3	器楽Ⅱ（和楽器 文化箏） ○さくらさくら	・箏の特性や奏法を学びながら、和楽器に興味・関心を持ち、我が国の伝統音楽に親しみ、理解する。 ・学んだ奏法を組み合わせ、「さくらさくら」を独自にアレンジして発表する。	○	○	○			12
									70